



集中治療室から コンニチワ

沖縄協同病院
集中治療室
佐久田 豊

急性肺炎の患者さんは集中治療室に入院することが多いです。肺炎の原因となる微生物には細菌・真菌・ウイルスなどがあります。なるべく原因となる微生物をみつけて治療を開始しています。細菌であれば抗

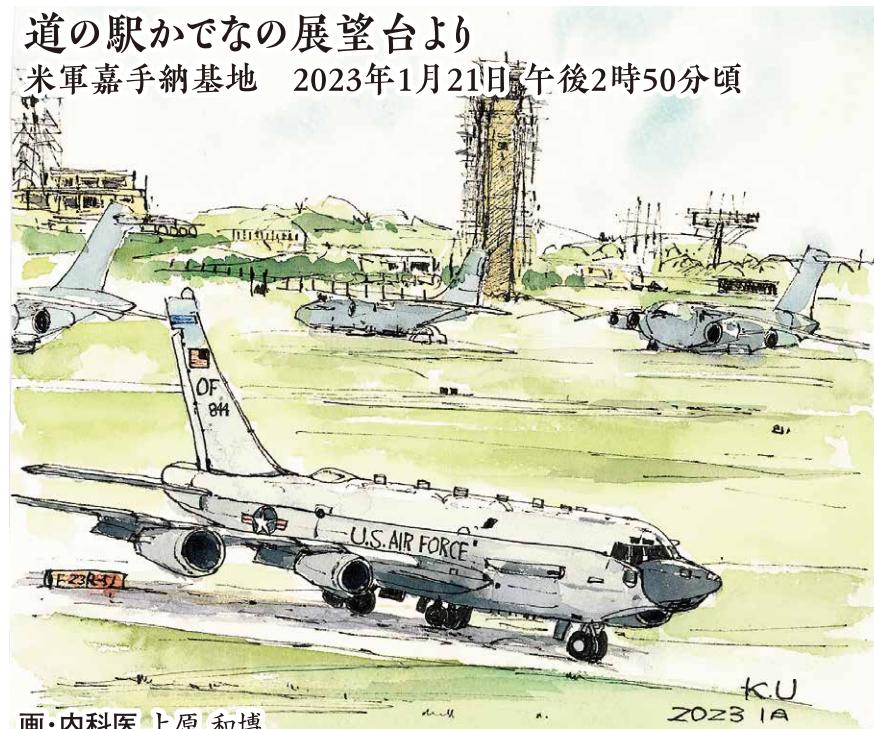
生剤(抗生物質)を使用します。しかしながら2259例を調べた成人市中肺炎の論文では、細菌-真菌が15%しか同定できないということでした。すなわちそれ以外はウイルスなどが関与した肺炎で、抗生素の使用は意味が無い状態でした。この状態はここ沖縄でもあてはまると考えています。

ウイルスには新型コロナやインフルエンザがありますが、これら以外の多くのウイルス疾患に対する治療薬は無く、対症療法を継続するしかありません。そのような中、今冬季は新型コロナ感染症に加え、インフルエンザ感染症にも注意をしましょうと注意喚起が出ています。日本のインフルエンザの流行は、6月～8月が冬である南半球での半年前の感染状況を参考にしますが、2020年～2021年には無かつたインフルエンザ感染症流行が昨年2022年5月～6月にオーストラリアであったことから、2022年年末からの冬のインフルエンザ流行が沖縄でも心配されているのです。

ご存じの方もおられると思いますが、スペイン風邪と言ってインフルエンザ感染流行が1918年3月からアメリカ・ヨーロッパで始まり、1年間に3回も流行して、世界中で4000万人以上が亡くなりました。米国Johns Hopkins 大学がインターネット上で公開している新型コロナ感染状況資料によると、2023年1月8日現在新型コロナウイルス感染全死亡者数は約671万人と、死亡者数でみると医療の進歩のおかげで2018年流行時よりは数字的には死亡者数は減らせていました。しかしながら新型コロナウイルスとインフルエンザの同時感染はイギリスの2020年1月～4月データベース研究によると43.1%対26.9%と同時感染の死亡率が高かったそうです。

何としても同時感染は避けたい事態です。現在、新型コロナ感染対策の緩和が一部広まりつつありますが、ドイツのマスク着用義務化で肺炎が減ったという報告もあり、習慣となったマスクの着用が引き続き感染対策に役立つと考えていますので、咳のある方、高齢者に接する方などは特にマスクの着用を引き続きお願いいたします。

道の駅かでなの展望台より
米軍嘉手納基地 2023年1月21日午後2時50分頃



画・内科医 上原 和博

委員會活動報告 9. 診療錄管理委員會

の向上と円滑な運営を図るための検討・討議を行い、沖縄協同病院の医療活動を前進させる目的で設置されました。

当院では電子カルテに加えて同意書などの紙医療記録も併用して運用しており、通院している患者様の1976年の当院入院診療開始からの入院紙カルテも保管しております。

患者様の診療情報を安全かつ適切に保管し、治療やサービスにつなげていけるよう活動してまいります。

事務局長 廖志喜 未鈴(診療情報管理室)



▶ 部署紹介

⑩ 中央檢查室

中央検査室は主に、検体検査部門と生理検査部門から構成されています。そのうち検体検査部門は生化学検査、免疫血清検査、血液学検査、輸血検査、細菌検査、病理検査、細胞診検査、一般検査と、とても細かく分かれています。

患者様と関わる部門としては、1階の採血室での検体採取を行っています。また、コロナ禍になってからは、患者様はもちろん職員と職員家族のコロナの検査を一手に引き受けており、多い時で一日に293件の検査を行いました。今後もより良い医療が提供できるよう職員の技術向上とひらかれた中央検査室を目指に取り組みます。どうぞよろしくお願いします。

検査室長代行 玉城 正幸



少々は枝が
らやや下向きの小
枝を出して他の枝
に引っ掛け伸び
る。その為伐採す
る時は私が全体重
で引いても取れな
い。今、小枝を出し
ながら戦争に向か
つて伸びている枝
も気づいた時には
全国民で引っ張つ
ても阻止できなく
なっている。

た。ケービーは鳥が食べながら糞を落とすためか大木(蔓)の下には苗木も多い。枝を煎じて飲めば高血圧・腎臓・肝臓・神経痛等に効くといつ。小さい頃、甘酸っぱいケービーの赤い実は野イチゴ、ナンテンシー(桑の実)と共に「子供」といっては自然のおやつだった。しかし、困ったことにこれらのは実は鳥にとっても好物なので鳥を捕食しにハブが来るのだ。親は口酸っぱく藪には入るなど言つていたが、「子供が聞くわけはない」。さて、「聞く力」「丁寧な説明」が口癖の首相は、国民の声に全く聞く耳を持たず、國民に何の説明もなく、「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費予算増額」という國民の命に関わる重大問題を国会で議論することなく閣議決定した。それに伴つて南西諸島へのミサイル配備を進め、与那国と那覇では住民避難訓練(主催は國・県・自治体)が行われた。訓練での敵国は「X国」(公表資料より)だという。どこの国が攻めてくるのかもわからずに訓練しているのである。訓練に対して那覇市の担当者にある母親から「あんたこんな訓練するの。何考えてるの」と電話があつたという。母は強しである。政治家が今すべきことは避難訓練より避難訓練が必要のない日本にすることなのに「ヌーカンゲート」である。

ハルサー
だより ⑯

クービ(ツルグミ)